第一節　学校法人昭和学院生まれる

学制改革に伴って、本学院も、従来の財団法人昭和学院の組織を変更して、昭和二十六年学校法人昭和学院となり、一層の教育活動の充実高度化を図ることとなった。

第二節　青空にこだまする祝歌

一、青年期を迎えた学院

本校も創立以来十五年、人にたとえればようやく青年期を迎えることとなった。年々増築拡張される校舎校地、整備されてゆく学習施設、環境と充実した教育内容が築かれていった。昭和三十年八月ソフトボールクラブは、県下の強敵を次々に破り、全国大会への夢をはじめて実現して、晴れの県代表として、大阪西宮球場での全日本女子ソフトボール選手権大会へ出場し、全校を湧きたたせた。これは本学院スポーツクラブ

ソフトボール優勝祈願

史上記念すべき勝利であって、その後の本学院スポーツ発展のきっかけをつくり、他のスポーツクラブに対して大きな刺激を与えた。

二、応援歌の誕生

ソフトボールクラブが全国大会に初出場して以来、運動部の活躍が全国的なものとなり、その応援、激励のために応援歌を作ろうという意見が強まり、国語科及び生徒会を中心として作詩し、音楽科の山崎八郎先生に作曲を依頼、「昭和学院応援歌」が誕生し、今日まで歌い継がれている。

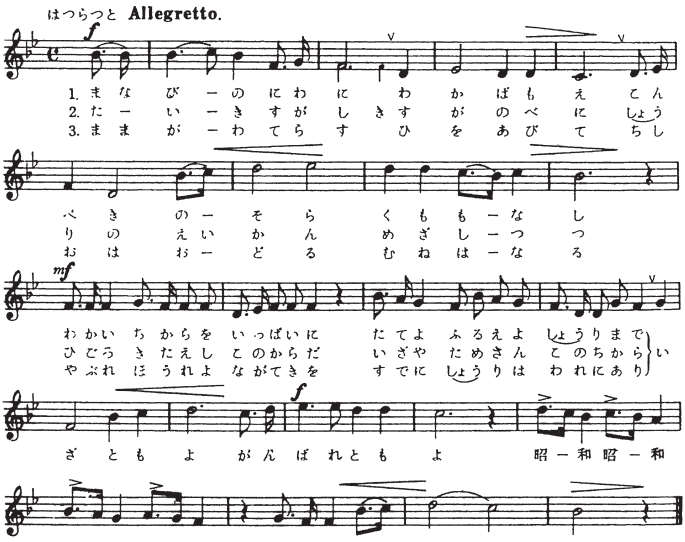
応援歌を斉唱する生徒

三、創立十五周年記念式典と記念事業

式典は晩秋の昭和三十年十一月二十日（日）、本校校庭に式場を設営して行われた。当日は快晴の秋日和に恵まれ、陽ざしをいっぱいに受け、全校生徒と多数の来賓父兄を前にして、厳粛なうちに進められた。また学院長の式辞、来賓の祝辞など多くの人々に感銘を与え、この佳き年に巡り会ったことの喜びをともにした。

記念式典終了後、創立十五周年にあたり、何か記念事業を残そうという

昭和学院応援歌



一、学びの庭に　若葉萌え
紺碧の空　雲もなし
若い力を　いっぱいに
起てよ奮えよ　勝利まで
（以下くり返し）
いざ友よ　がんばれ友よ
昭和　昭和　昭和　昭和
われらが昭和

二、大気清しき菅野辺に
勝利の栄冠目指しつつ
日頃きたえし　この身体
いざや試さん　この力

三、真間川照らす　陽光（ひ）をあびて
血潮は躍る　胸はなる
破れ屠れよ　汝が敵を
すでに勝利は　我にあり

作詩　昭和学院生徒会選定
作曲　山崎八郎

ことで、特別教室を建設することに決し、創立十五周年記念教室建設委員会が発足した。記念教室の建設は、記念式典終了後に正式に決定され、諸準備を整え、工事の着工は、昭和三十一年の八月の初めとなり、京成建設株式会社に依頼した。工事は付属施設を除き、一〇七坪の建築で、九月には基礎工事が完了し、十二月中旬に鉄筋二階建ての近代建築が完成した。

建物は一階が教室二室、玄関、ホール、階段、予備室で、教室は折りたたみ形式の間仕切りを使い、いつでも開閉自由なものとして二〇〇名は収容出来る小講堂として使用も出来るように設計された。一室は視聴覚教室に、もう一室は被服実習室に予定された。二階は、階段を上って右側（南）に和室を三室、手前から一二畳、一二畳、一五畳という広さでつくられ、奥が二〇坪の洋室（来賓室）となった。

創立15周年記念式典学院長式辞

階下の教室の床は檜のフローリング張りで、階上の来賓室とホールはアスタイル張りである。また建築の外装は玄関付近はタイル張りにし、他はモルタル塗り、刷毛引きガンリシン仕上げとなった。

この記念教室の落成式は、昭和三十二年三月三日に記念教室階下（第一視聴覚室）で行われ、父兄及び工事関係者多数の出席をいただき、その素晴らしい施設を披露した。

階下の視聴覚室は、当時としては未だ視聴覚教育がその価値を充分に認

識されていなかったときだけに、新しい試みであった。また階下の一室は家庭科室として被服実習にとくにあてられ、本学院の教育施設はさらなる充実をみた。

なお、階上は礼法室として、和室と洋室とが備えられ、和・洋室には同窓会からテーブルや椅子が寄付され、整備された。ここで、家庭科の授業の一環として礼法指導が行われて、一般にややもすると低下していると言われる礼法作法の指導が充実され、近代女性としてのマナーの習得も出来て、校訓である明敏謙譲の精神が大いに生かされることが期待された。

この校舎は昭和四十年度に視聴覚館と改められ、階下を一教室に使用し、映写室、スクリーン、電動式引幕、テレビなどが常設され、第一視聴覚室として広く授業その他に利用された。四十二年度には階上も和室三室を改装し、第二視聴覚室として、映写室、オーディオ諸施設、スクリーン、テレビなどが設置され活用された。洋室は、視聴覚ライブラリーとして、本学院の視聴覚教室の中枢機関となり、器具の保管、貸し出し指導等を行った。

創立15周年記念教室

第三節　よろこびに湧く

昭和三十三年、この年は学院にとっても輝かしい栄誉に浴した年となった。それは本学院創立者伊藤友作先生が、教育功労者として、藍綬褒章下賜の栄誉を受けることとなったからである。

さきに、先生は昭和二十八年の学制八十周年記念式典に際し、教育功労者として、文部大臣より表彰を受けた。先生にはその教育功労により度重なる栄誉を受けてこられたが、この度は教育者としての最高の栄誉とされる藍綬褒章の受章となった。この輝かしい表彰を受けられたことは、ひとり先生のみならず、昭和学院関係者すべての深くよろこびとしたところであった。

藍綬褒章は五月三日受章が決定され、五月二十九日、文部大臣室において、松永東大臣より伝達された。なお当日は、先生を含め四〇人の受章者であって、褒章伝達の後文部大臣の祝辞を戴き、代表者の答辞があって、その後一同は皇居を拝観、天皇、皇后両陛下にお目にかかり、親しくおことばを戴いたのである。

先生は齢六十にして、私学を創設して、その教育理想の実現を果たし、この度、そのご功績が認められ受章の光栄に浴された。先生の胸中察するに余りあるものがあった。創立から学校づくりに、数々の苦難を乗り越え今日の発展をつくったご功績に対し、受章はむしろ遅きに失した感があった。

第四節　栄誉を永遠に

伊藤友作先生胸像建立

この藍綬褒章受章を記念して、伊藤友作先生の胸像を建立しようという声が学院関係者の間におこり、六ヵ月余の月日をかけて完成し、十一月二十三日の祭日に除幕式が行われた。

胸像は、東京学芸大学教授で本学院短大講師であった新井喜惣次先生の手によって作られた。

晩秋の日射し輝く

この日は長い間教育に従事、専念してこられた伊藤友作先生の除幕式にふさわしく、晩秋の陽の光がさわやかな一日であった。胸像は純白の布で被われ、家庭科校舎の正面、ほぼ中央に位置していた。

式には友作先生をはじめ、同夫人、副校長伊藤一郎先生、同夫人その他来賓として、千葉県副知事宮沢弘氏、国会議員臼井荘一氏、私学審議会会長勝田友三郎氏、市川学園校長古賀米吉氏他が臨席され、学校関係では、小学校他各学校代表の職員、父兄有志、卒業生代表、生徒代表などが多数参加した。胸像の前には祭壇が設けられ、御神酒、鯛、野菜などが供えられ、四方に青竹を配し、しめなわでかこい、周囲には紅白の

幕が張られ厳粛な雰囲気であった。式は午前十時に開始され、最初に胸像の除幕が行われたが、これには御令孫の久子さんと正子さんがあたられた。

除幕がすむと次に葛飾八幡宮の筥崎宮司が祝詞を奏上、おはらいのあと、千葉県知事の祝辞を宮沢弘副知事が代読し、つづいて他の来賓の祝辞があり、その後、出席者代表による玉串奉奠があり、最後に制作者新井先生の挨拶があって閉式となった。

なお同胸像は、昭和四十年に創立二十五周年記念に造られた講堂横の大庭園に移動され、さらに伊藤記念ホールの建設に伴って、同ホールのホワイエに設置された。

第五節　溢れる力に豊かな成長

一、成人を迎えた学院

終戦後しばらく混乱のうちに過ぎたわが国経済は、昭和三十年代に入るとようやく大きな成長発展へと向かい、国民所得は増加し、生活水準は高まり、教育が一段と普及した。その結果、中学校から高校への進学率は年々増加を示した。

このような社会の推移の中で、本学院は小学校、中学校、高等学校、短期大学、さらに栄養学校と一貫した教育施設がととのい、昭和三十五年度は職員一五〇名、児童、生徒、学生数は実に三、九〇〇名という大規模な総合学園に発展した。

教育施設・内容の充実

これに伴い、教育施設及び内容に大きな充実発展が見られ、昭和二十七年から三十四年までの間に、小学校校舎、理科館、家庭科実習教室、商業科実習教室、家庭科準備室、商業館などが新設された。昭和二十七年度は新設の小学校校舎が建てられた。総面積六八一平方メートル、木造二階建て瓦葺きであった。室数は上下六教室に職員室などが付属していた。

しかし、昭和三十七年度に小学校が新しく鉄筋校舎として建築され、小学校がそれに移ったので、そのあとこの校舎は高校校舎として使用され、昭和四十年度には、防音装置など内部を改修して、芸術館として、音楽室が三教室、美術室が二教室、音楽準備室、器楽練習室（六室にそれぞれピアノを備える）、美術準備室などが整備された。昭和五十四年九月の新芸術館の完成にともないこの校舎は取り壊され、同年十二月その

昭和30年頃の校庭・ダンスの授業

跡地に文化クラブ会館が建てられた。

理科館は昭和二十九年八月に建築された。この校舎は木造二階建て、上下六教室で、一部普通教室として使用されたが、理科教育施設の整備のために昭和四十年度に改修して、化学室・生物室・物理室・地学室など五教室とし、使用する机も新しく整備され、電気・ガス・水道の付帯施設が整えられた。

スポーツクラブ等の活躍

スポーツは千葉県高等学校大会に各クラブとも優勝またはそれに準ずる成績を収めた。

ソフトボールが昭和三十年六月に県大会に初優勝し、八月に全国大会に出場したのをはじめとして、バレーボールが三十八年八月に県大会に優勝し、全国大会及び国体に出場、他に卓球・バスケット・陸上競技が県大会を制覇し、全国大会及び国体に参加し、本学院スポーツの名声を高めた。

この他に昭和三十五年三月三十一日に、職業指導優秀の功により、千葉県知事及び千葉県教育委員会教育長より表彰の栄に浴した。また職業指導については、昭和三十六年三月三十一日に、林孝教諭が千葉県知事・千葉県教育委員会教育長より、昭和四十四年三月二十七日に、河原清輔教諭が同じく、職業指導の成績優秀の功により、表彰状を受けている。

このように多方面において大きく教育が発展するうちに本学院は創立二十周年を迎えた。

二、青空にきらめくプール

創立二十周年を記念してプールの建設が行われ、プールの竣工式は、昭和三十四年八月十二日の午前九時より行われた。当日は真夏には珍しく、どんよりと曇り、肌寒ささえ感じられるといった天候であったが、完成したばかりの真新しいプールは満々たる水をたたえ、多数の列席者を迎えた。プールサイド正面には祭壇が設けられ、学院長、副学院長、諸先生方がならび、両サイドには、父兄有志、生徒代表が控えていた。

式は、まず葛飾八幡宮、筥崎宮司の清めの式があり、つづいて学院長の手によって、テープが切り落とされ、会場は列席者の拍手に湧いた。その後、学院長の挨拶、来賓のお祝いの言葉などがあり、式は無事終了した。

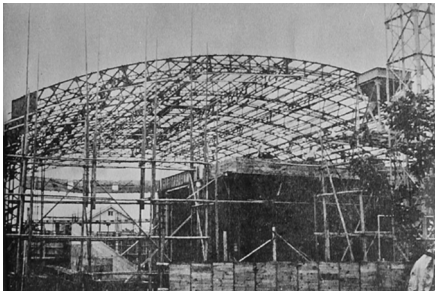
式後、この日の竣工を祝って、学生水泳界を代表する日本大学水泳部のオリンピック出場選手による模範競泳があった。選手たちは、まず本校水泳部員と初泳ぎをした後、基本的泳法の指導を丁寧に演技解説をし、その他いろいろな型の泳ぎを力強く披露してくれた。

屋外プール開き

なお、昭和五十年十二月には、この屋外プールを改良し、室内温水プールとし、水温・室温とも三〇度前後、年間使用の施設となりその利用価値を高めた。

三、創立二十周年記念式典挙行と大講堂

昭和三十六年の新春、待望の大講堂の完成を待って、創立二十周年記念式典が一月二十一日午後一時から新装のなった講堂においてその落成式をかねて、多数の来賓、父兄の出席のもとに盛大に行われた。



新築中の鉄筋大講堂

新しい大講堂は六ヵ月余の工程を経て、昭和三十六年一月十六日引渡しを受けた。総坪数六一九坪、収容人員三、五〇〇名、マンモス講堂と評され、間口一七・五メートル、奥行七メートルの舞台が設けられ、音響、照明、映写の諸施設が備えられた。

なお、この新講堂の完成に伴い、従来の講堂は、昭和三十六年一月より体育館に改造することとなり、この工事に着手して同年三月から第

体育館に改造された旧講堂

一体育館として使用されることとなった。改造工事は、入母屋式の瓦屋根を壊し切妻式亜鉛板の屋根に改修し、窓は高窓に模様変えし、建物の周囲はグレーのモルタル塗りで仕上げられた。内部は従前のステージを取り壊しスペースを広げ、バレーコート一面、バスケットコート一面が取れる広さであった。また、従来の廊下にあたる部分に各運動部部室を設けた。他に体育教官室と体育用具室を建物の東側に設けた。